

平成26年8月8日
山 口 県

病害虫名 イネいもち病(穂いもち)

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生時期 8月中旬～9月上旬
- 3 発生程度 多

4 注意報発令の根拠

- (1) 8月5日～7日の巡回調査では、葉いもちの発生ほ場率は29.1%で平年(17.2%)の約1.7倍、発病株率は12.3%で平年(4.8%)の約2.6倍で平年に比べ多かった(図)。
- (2) 上記調査では、7月下旬の巡回調査時の発生ほ場率20.9%から約1.4倍に増加した。
- (3) 福岡管区気象台の1か月予報では、気温は平年並、降水量は平年並または多い、日照時間は平年並または少ない予想で、いもちの感染に好適となる見込み。

5 防除方法

(1) 防除時期

ア 粉剤・液剤

穂ばらみ後期及び穂揃期の2回

イ 粒剤・パック剤

出穂前

注) 種類によって使用時期が異なるので、注意すること。

ウ 葉いもちが発生している場合は直ちに防除する。

(2) 防除薬剤

平成26年山口県農作物病害虫・雑草防除指導基準による。

6 防除上注意すべき事項

- (1) 長期持続型箱施用剤を施用したほ場でも発生している事例があるので、ほ場の見回りを実施し、葉いもちが発生している場合は直ちに防除する。
- (2) 薬剤散布の際、降雨が続く場合は雨の合間に散布を行うことも必要となるが、散布後3～4時間は降雨のないことが望ましい。
- (3) 出穂後に天候不良が続く場合は、穂揃期の防除後7日～10日目に再度防除する。
- (4) 防除を行う場合は、周辺の野菜等に農薬が飛散しないように注意する。

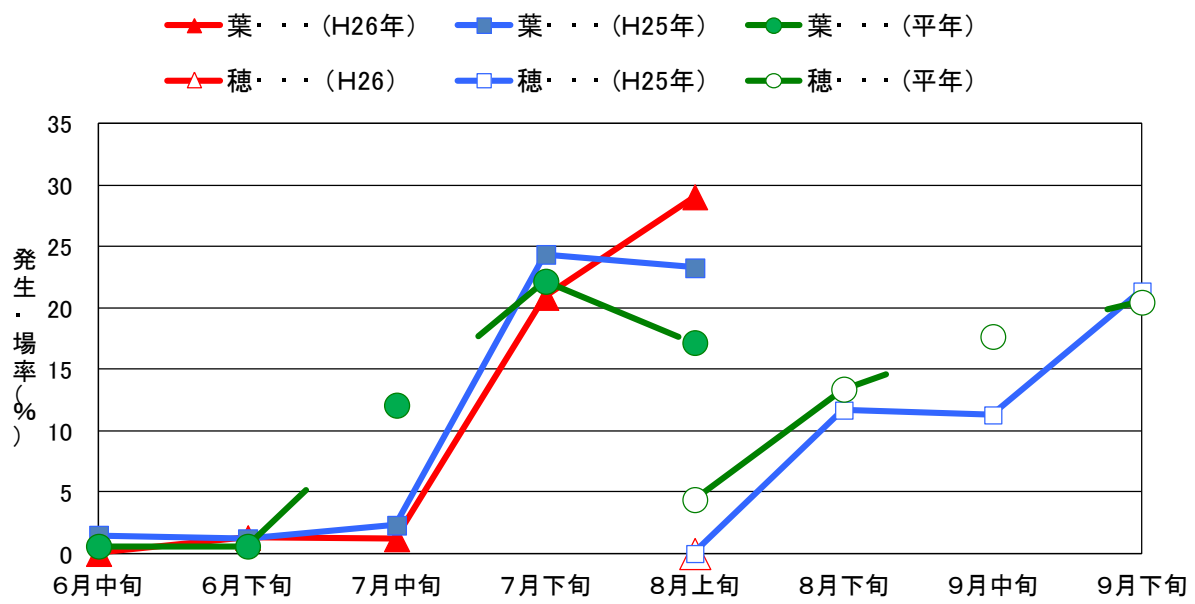


写真1 葉いもちの発病状況(左)と進行型病斑(右) 写真2 穂いもちの発生状況
(進行型病斑では孢子形成数が多い)